

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E132M004		家庭科授業研究(中等) (Studies in Teaching of Home Making (Junior High School))							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用		木4	日本語			単独						
担当教員	氏名 財津 庸子 E-mail yzaitsu@oita-u.ac.jp 内線 7601														
授業の概要	中学校・高等学校家庭科の授業づくりについて、家庭科授業研究(中等)及び実習のふりかえりをふまえ、さらに実践力を高めるために、教材研究の幅を広げるため、とは違うテーマで授業実践研究を行う。 教材開発、評価、小中高の系統性などに焦点化し、具体的に検討する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 家庭科授業研究をふまえ、中学校・高等学校家庭科の授業づくりを構想する。															
目標2 実習のふりかえりをふまえ、実践分析等から指導案や教材の改善を検討する。															
目標3 開発した教材による模擬授業を行い、スキルアップする。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									6		4				
授業の内容															
1 家庭科授業研究(中等) および教育実習の成果と課題の確認															
2 小中高の家庭科の内容の関連・系統性および評価等についての確認															
3 家族・家庭生活に関する内容に関する実践例の分析															
4 自分の成長・子どもの発達に関する実践例の分析															
5 衣生活に関する内容に関する実践例の分析															
6 食生活に関する内容に関する実践例の分析															
7 住生活に関する内容の実践例の分析															
8 消費生活に関する内容の実践例の分析															
9 個人テーマに基づく教材開発1															
10 個人テーマに基づく教材開発2															
11 模擬授業1															
12 模擬授業2(可能であれば協力校での授業実践)															
13 模擬授業の検証															
14 教材および指導案の改善案作成															
15 全体のふりかえりとまとめ															
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		実践例の分析、意見交換・相互評価、教材開発・作成、指導案作成、模 擬授業			工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の予習(15h)												
	事後学修		中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の復習(15h) 教材開発・作成、指導案作成、模擬授業の練習(15h)												
	想定時間合計		45												
教科書		文科省 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(2017)ISBN978-4304021541 中学校 技術・家庭 家庭分野 開隆堂(2021)ISBN978-4304081019 文科省 高等学校学習指導要領解説 家庭編(2018)ISBN978-4877304195 高等学校家庭科教科書(手持ちのもので可)													
参考書		中西雪夫・小林久美・貴志倫子共編「小中学校家庭科の授業をつくる～5年間を見通すための理論・実践・基礎知識」学術図書出版(2023)ISBN978-4780610765, お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「作る手が子どもたちを輝かす アクティブラーニングが育てるこれからの家庭科」地域教材社(2017)													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		レポート等提出物	60%									
	発表および模擬授業等	40%										
注意事項												
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。 実習をともなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	中学校・高等学校の家庭科教員											
実務経験を いかした教 育内容	実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能が、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。											